

3年次

# 主体的・協働的な学びを育む支援

～学ぶ意欲を高め、学びを深める評価場面の工夫～



「主体的・協働的な学び」は、障害のある子どもたちへの教育の中で従来から大切にされ、議論され続けてきたことでもあります。本校ではこれまでの2年間「主体的・協働的な学びを育む支援」という主題の下ICTを活用した学習活動（1年次）や個別教育計画を活用した支援方法（2年次）について検討を重ねてまいりました。今年度は評価場面に焦点をあて、幼児児童生徒が学ぶ意欲を高め、さらに学びを深めることができるような評価場面の在り方について研究を進めてきました。

つきましては、下記の通り研究協議会を開催いたします。ご多用のことと存じますが、多くの方のご参加をお待ちしております。

期日 平成30年1月26日（金） 9:00～16:00

場所 東京学芸大学附属特別支援学校・成美教育文化会館

9:00~9:30	9:30~9:50	10:00~11:00	11:10~11:50	11:50~12:45	12:45~14:15	14:30~16:00
受付	全体会	研究授業 公開授業	ポスター発表 ミニ講座	昼食	分科会	講演

全体会 今年度の研究の概要・各分科会の紹介

研究授業 小学部 集会「学発練習はじまるよ」 中学部 総合学習「学習発表会」 高等部 作業学習「陶工班」

主催 東京学芸大学附属特別支援学校 後援 東京都教育委員会 東久留米市

## 講演

「アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくり」 明官 茂（国立特別支援教育総合研究所）



今回の学習指導要領改訂では、「新しい時代に必要となる資質・能力と学習評価の充実」（何ができるようになるか）、「主体的・対話的で深い学び」（どのように学ぶか）、「各教科等で学ぶ資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す」（何を学ぶか）がキーワードとして示された。学習指導要領改訂に向けて、特別支援教育で継続的に大切にしていけることは何か、新しく取り組むことは何かを考える。

## 研究授業・公開授業

幼稚部	ひかり組	朝の集まり 課題遊び「運動遊び」	山内裕史・小泉浩一 伊東久美子・田口悦津子
小学部	全学年 1～6年生	研究授業 集会「学発練習はじまるよ」	小島啓治・會澤加奈子・池田菜緒 加藤夏奈・坂詰健司・柴田琢磨 仲野真史・松本直巳・吉田友紀
中学部	グループ ①	研究授業 総合学習「学習発表会」	小田達夫・中村理美・蓮香美園
	グループ ②	総合学習「学習発表会」	高橋智子・齋藤大地・仲野宏樹
	グループ ③	総合学習「学習発表会」	岡本有未・野原隆弘・山口知子
高等部	陶工班	研究授業 作業学習「陶工班」	橋都由美子・松本晃・樋口絢子
	全学年 1～3年生	総合学習「学習発表会」	末利容子・渡邊聡・岩本悠希 長濱加奈子・佐藤弘康

\*太字になっている授業が研究授業、その他は公開授業となります。

\*幼稚部は朝の集まりと課題遊びの2本の授業を公開します。

\*中学部は縦割りのグループで授業を行います。

\*高等部は作業班（縦割りグループ）で研究授業を行います。

# 分科会

## ● 分科会 1 (幼稚園)

【共同研究者：大伴 潔 橋本 創一 林 安紀子】

### ○インクルーシブ保育を考える一連続性のある育ちや学びと評価場面の検討ー

幼児の主体的・協働的な学びを育む支援の場として昨年度に引き続き交流保育を取り上げる。本校の交流保育は1978年から市内の保育園と行われ、幼児は毎週水曜日に保育園に登園し保育園児とともに保育を受けている。今年度は新たに東久留米市立しんかわ保育園と交流をはじめ、年間28回の交流を行っている。

分科会前の時間を使い交流保育の様子を映像で紹介する。分科会はシンポジウム形式で行い、保育園からは交流保育の初年度の取り組みについて、幼稚園からは連続性のある育ちや学びと評価場面について話題を提供する。その後、共同研究者の指定討論を受け、参加者の皆さんでインクルーシブ保育に向けた取り組みについて協議を深めていきたい。

## ● 分科会 2 (小学部)

【共同研究者：小笠原 恵 藤野 博】

### ○小学部段階における学習評価の可能性ー活躍を通して評価場面と授業作りを考えるー

主体的な学びを促進する上で、自己評価、他者評価は大切な要素であるが、特に小学部段階においては、言葉のある児童に限られ、困難である。今年度、集団活動の中で、児童が「やった」、「できた」と自分自身が感じる手応えと、そのときの周囲のリアクションを大切に、効果的な手立てを検討してきた『活躍』にヒントを見出し、この取組が、自己評価、他者評価の下地となる力を涵養するものではないかと考えた。分科会では、児童一人ひとりに対する効果的な活躍場面の工夫の検討をしてきた「活躍場面省察会議」の取組を紹介するとともに、これまでの成果を踏まえた研究授業「集会」での児童一人ひとりに対する支援の在り方について協議したい。

## ● 分科会 3 (中学部)

【共同研究者：伊藤 友彦 小林 巖 澤 隆史】

### ○「いいね」が育てる総合学習の学びと深まり-生徒同士の相互評価に注目して-

中学部では昨年度、「総合学習」の実践記録の検討から授業改善の視点を整理し、生徒の興味関心から授業づくりへと繋げ、学習を展開した。ここでは、生徒自らの主体的・協働的な学びを育むために必要な指導計画作成上の視点を整理し実践した。本年度は、この視点の妥当性について検討するとともに、三つの総合学習「東京探検」「関西」「学習発表会」の授業において授業内の評価場面をより重要視する取り組みを行ってきた。加えて普通のクラス作りや縦割りの各学習場面においても評価場面の充実を目指し展開してきた。研究協議会当日は、生徒同士の相互評価の場面で「いいね」等、お互いを認め合う言葉のやりとりが、たくさん出ることを期待して学習を計画している。本校の研究授業へのご意見を頂き、併せて各参加校の皆様との意見交換が活発にできたらと考えている。

## ● 分科会 4 (高等部)

【共同研究者：奥住 秀之 村山 拓】

### ○高等部における主体者意識を高めるための自己評価の在り方と授業作り-作業学習における自己評価を中心として-

昨年度の研究において高等部では、生徒自身に課題意識と主体者意識を持たせるために、個別教育計画の評価場面に生徒を参加させることを検討した。今年度の研究では、さらに生徒の主体者意識を高めるために、授業の中での自己評価場面の取り入れ方について作業学習を中心に検討してきた。その中で、各作業班の特徴を活かした自己評価場面や作業日誌などを見直している。本分科会では、高等部段階で生徒本人の主体者意識を高めるための自己評価の在り方や目標設定について、研究授業で行う陶工班の作業学習を基に協議していきたい。

# ポスター発表・ミニ講座

### ○ポスター発表

学校図書館司書と協働した授業実践報告・養護教諭と協働した授業実践報告

金融教育研究プロジェクト報告（東京学芸大学とみずほFGの共同研究の一環として）他

### ○ミニ講座

1年次の研究「ICTを活用した学習活動の充実」及び、2年次の研究「個別教育計画を活かした授業作りから」について、各部の研究や授業実践に関するポスターや実際の教材を展示し報告を行う。

## <参加費>

参加費・・・2,000円（当日受付にてお支払いください）

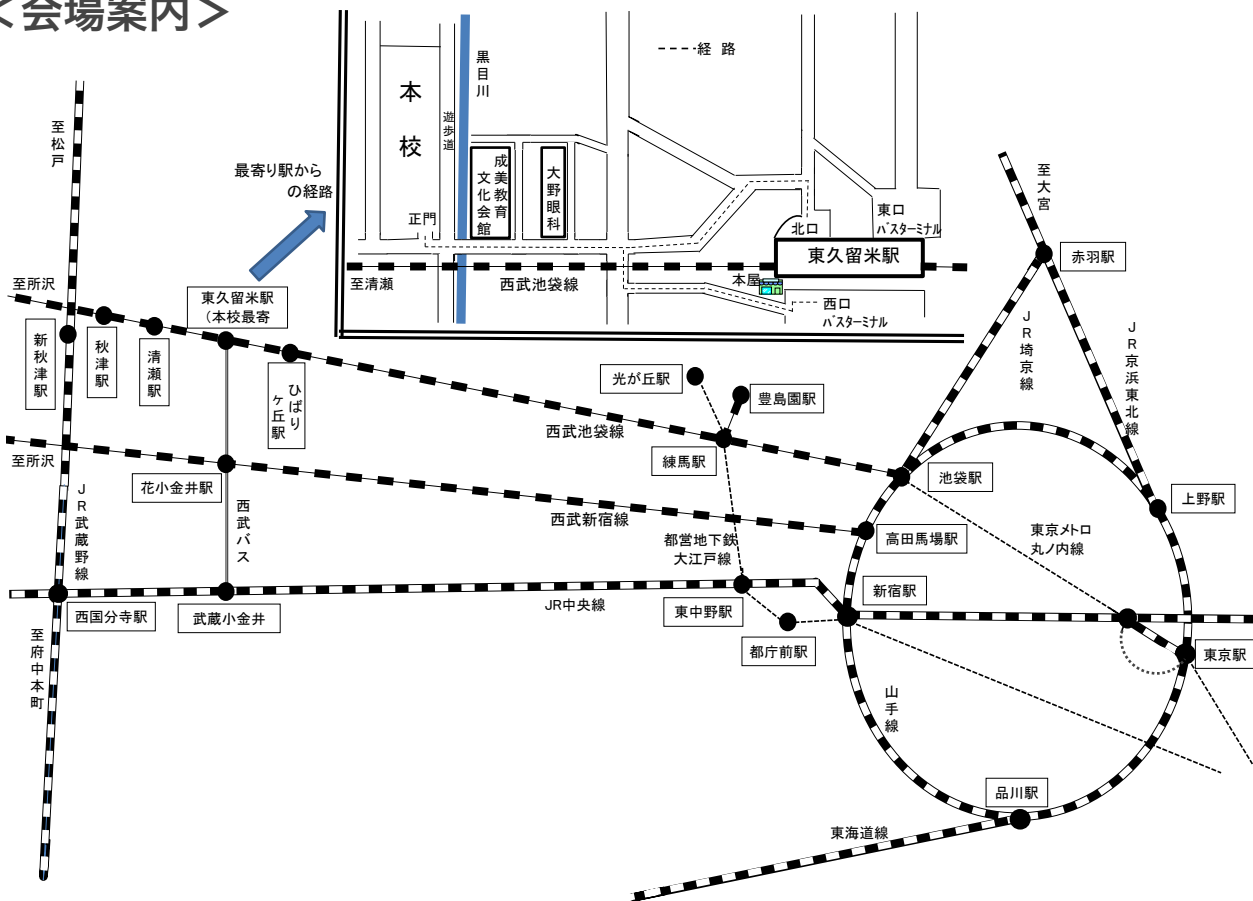
お弁当代・・・800円（希望される方は申込書に記入し、当日受付にてお支払いください）

## <申し込み方法>

同封の「参加申込書」に参加を希望される分科会の番号をご記入の上、ファックスまたはメールでお送りください。会場の都合上、希望者が多い場合は第二希望の分科会をお伺いすることもありますのでご了承ください。「参加申込書」はホームページにも掲載します。メールでお送りいただく場合はそちらをご利用ください。締切は平成30年1月15日(月)です。締切日以降は下記の連絡先までお問い合わせください。

●申し込み先      ファックス：042-471-5275      Eメール：sskenkyu@u-gakugei.ac.jp

## <会場案内>



- 西武池袋線 東久留米駅東口（北口方面）徒歩10分
  - 西武バス東久留米駅西口 徒歩10分
- \*お車でのご来場はご遠慮ください。

## <問い合わせ先>

東京学芸大学附属特別支援学校      〒203-0004 東京都東久留米市氷川台1-6-1

Tel:042-471-5274      Fax:042-471-5275

Email: sskenkyu@u-gakugei.ac.jp      URL: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~tokushi/>

研究主任 齋藤大地